

江戸時代の広島藩で財政改革をした人物に頼杏坪がいる。塩の価格が生産過剰によって低下することを防ぐ休法などを提言した。また、甥の頼山陽の教育にも力を入れた。山陽の弟子に幕末の福山藩を支えた儒学者関藤藤陰がおり、その関藤が頼りにした人物が山田方谷である。

江戸時代の改革では米沢藩の上杉鷹山が有名だが、同藩の借金返済には約100年か

緑地帯 野島 透

かっている。方谷は7年間で10万両(約600億円)の借金を返済した上、同額の蓄財をした。成功の理由は何か。

方谷には領民を富ませるこ

民に広報し、理解を求めた。方谷は、周囲の誹謗中傷にもひるまず徹底的に藩財政を調べ上げ、粉飾の事実をつかんだ。体面を重んじる重臣た

山田方谷の夢実現

③

ちの大反対を押し切り、「体面を維持す

とが藩を富ませ活力を生むという哲学があった。改革の果実を領民に還元するという領民第一主義である。節約政策もしたが、一般の農民に重い課税はしなかった。政策を領

るのは小信を守るやり方。大なる信義を守るためには小信を守ってはおられぬ」と言っ

のである。方谷の信条は「事の外に立つて事の内に居せず(大局的視点で物事を考える)」「義を明らかにして利を計らず」である。大橋洋治・全日空会長はこの精神で会社を改革し成功したと聞いている。正確な現状分析と情報公開。それを支えた方谷の精神は現代でも通用するのである。(財務省大臣官房会計課長 東京在住)